

中建第17号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長
金井道夫様

中津川市長 大山 耕



今後の道路行政についての意見・提案の報告について

貴職におかれましては、日頃から道路整備に関しまして、ご理解とご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件につきましては、当市の意見・提案として別紙のとおり提出させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

また、新たな中期計画の策定にあたりましては、地方の実情をご考慮されるとともに、地方の中でも「特に中山間地域」へのご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

◇市の現状

道路整備や橋梁を含めた維持管理という面から見た場合、以下のような現状がある。

1. 社会福祉等の義務的経費の増大より、道路を含めた社会資本整備に投資すべき予算を抑制している状況
2. 維持管理においても、地方交付税により措置された金額を全て道路維持には活用できない状況
3. 橋梁の耐震化や予防保全についても対策が難しい状況

◇真に必要な道路とは

中津川市でいうと国道19号の及び県道整備の遅れ、さらに昭和50年後半から60年代に整備された道路が機能の面や老朽化の問題から、再整備の必要が出てきている。したがって、地方にとって真に必要な道路とは、まだ未整備である全ての機能の道路が必要。

1. 産業基盤を支えるために必要な高規格道路や幹線道路[濃飛横断自動車道・三河東美濃連絡道・国道19号・国道257号]
2. 主要な生活幹線道路[国道256号・県道・市道]
3. 生活道路[市道]

◇道路整備を進めるための課題

厳しい財政状況の中で、財源を得るための道路と生活のための道路を効率的にバランスよく整備する必要がある、その中でも以下の点が最も重要である。

1. 財 源
2. 住民とユーザーの理解
3. 情報の提供
4. 新たな道路整備計画

◇道路整備を進めるためには

水道は利用時に(安心安全な水が出るのが当たり前)疑問を抱かず利用する。つまり道路でも同じであり、住民やユーザーの信頼感を得るための対策が必要である。

1. 地域別にガソリン税の税収に合わせた道路特定財源の配分
2. 交付税の生活道路への維持管理費充当義務と交付額の算定基準のアップ
3. 住民とユーザーの道路財源への不信感の解消
4. 新設と維持を結束し、地域に応じた道路整備の将来計画

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

岐阜県 中津川市

○現状

◇市では道路整備基本計画を策定

・道路を機能別に分類し、ネットワーク上の必要性から見た優先順位を付け国及び県に必要な要望を行い、市事業においては優先順位に従い整備を進めようとしている

・期間は平成 20～26年度までを短期整備期間とし、既存道路の改築で考える

全体量

	箇所	延長 km	事業費(億円)
国道	34	56	72
県道	87	85	166
市道	4, 473	807	1, 223
計	4, 594	948	1, 461

短期整備

	箇所	延長 km	事業費(億円)
国道	25	29	57
県道	59	47	104
市道	214	63	121
計	298	139	282

○課題

◇国道については

・市内では国道19号の4車化もある程度進み、未改良区間の実施見通しもある程度たっているが、平成24年度の岐阜国体までには、恵中拡幅の完了が必要
・東濃圏域としての国道19号は、瑞浪～恵那間の4車化が進んでいないため、産業活動に影響が出ている。

◇県道については、

・県内の都市間を結ぶための道路であるが、県境ということもあり、合併で同じ市域内で完結する路線が増加。
・市域では生活幹線道的な意味合いが強くなり、市道同様に要望が多く早期整備が必要

◇市道については

・高度成長期に整備された生活道路が、急速に老朽化しつつあり、整備の必要性がある。
・市道の全体延長は約1, 400km
・短期整備63km(121億円)、中長期で744(km)1, 102億円、合わせて1, 223億円におよぶ
・基盤整備部門は予算ベースで約30億円規模の中で、年間において約8億円から12億円程度の投資的予算投入が可能としても、短期整備路線を実施するのに10年以上必要

交通ネットワークの拠点地域

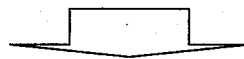
1. 鉄道及び高規格道路などが結節
2. 環境に配慮された産業活動
3. 文化的に優れた観光資源及び自然環境



7, 000万人の大交流

■ リニア停車駅の誘致

リニアで結ぶ首都、中部、近畿圏の中で、岐阜県を代表する中津川の「自然が豊か」「優れた観光資源」「ものづくりの力」を活かし、経済、文化の交流の拡大による地域の活性化



中津川を拠点とした場合の関連する圏域と交通軸

- ・中部圏内では
中央道を基軸に三河東美濃連絡道、濃飛横断自動車道、中部縦貫自動車道
三遠南信自動車道、東海環状自動車道、国道19号
- ・中部圏と北陸圏
濃飛横断自動車道を基軸に東海北陸自動車道、北陸道

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

岐阜県 中津川市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域の活性化	交通ネットワークの拠点化 ・ リニア停車駅及び車両基地の誘致 ・ 高規格道路の結節点	1. 産業が起こす活性化 ・ 既存産業の基盤整備 ・ 新しい産業の立地 ・ 雇用の拡大 ・ 商業の活性化 2. 観光が起こす活性化(新たな観光ルートの創設) ・ 中津川、馬籠などを経由し、長野県、富山県、石川県、福井県への観光ルート 3. 定住化の促進 ・ 産業活動によって雇用が拡大し定住化の促進 4. 少子高齢化 ・ 定住化による少子化への歯止め ・ 税収の増加による高齢化対策の強化	